

ずいそう

ご 趣 味 は …

田 中 康 之



本誌の「ずいそう」欄を拝見すると、よい趣味をお持ちの方が多くに感心させられる。ひるがえってわが身を考えると、その芸のなさに恥じ入るばかりである。「ご趣味は？」と聞かれると言葉につまり、「仕事が趣味で…」とか「無趣味が趣味でして…」と訳の判らない返事をすることになる。釣り、花づくり、盆栽、ゴルフ、ソリッドモデル、ボトルシップなどなど、手がけたことはいろいろあるが、何せ決断力に優れた性格（人によっては飽きっぽいともいう）が災いして長続きせず、何一つものになっていない。

鉄道模型はその中の例外的存在である。鉄道模型をはじめたのは、戦後間もない中学生のころである。近くのクズ鉄屋で壊れたOゲージ（32mmゲージ）の電気機関車を貰ったのがきっかけで、のめりこんだ。当時は車輪や歯車やレールなど製作が難しい部品以外は、手作りが当たり前で、苦勞して8畳間いっぱいのレイアウト上を走る貨物列車を完成させた。その後社会人になったころ、HOゲージ（16.5mmゲージ）がはやりだし、独身寮生活のため親類の家に、分岐機を持つ少し複雑なレイアウトを完成させ、電気機関車で客車を引く列車を走らせて、甥たちに大いに感謝された。さらに時が過ぎて、子供を持つようになった頃、今度はNゲージ（9mmゲージ）が全盛になり、狭い官舎の部屋でも広げられる鉄道模型が出来上がった。子供の頃からの憧れであった蒸気機関車を入手したときは、興奮したことを覚えている。そして現在、私は車両数83車輛、レール延長延べ13,100mm、従業員（孫）3名を誇る大鉄道会社のレッキとしたオーナーである。

上記の3つのゲージが、どうしてこの数字なのかは諸説がある。麻雀のように8・16・32と倍々になってもよさそうな数字なのに半端な値となっている。ちなみにOはもともと1, 2, …番という、もっと大きいゲージがあってその下のゲージの意味でゼロ番とつけられたものをオーと呼んだ。HOというのはHalf of Oの略。NはNineの略。さらにこれより小さく、アタッシュケースに収まるZゲージ（6.5mm）というものもある。これ以上小さいものは無いとの意味でアルファベットの最後のZを使った。始まりは数字で終わり

がアルファベットとはいいかげんなものである。縮尺はOが約1/45、HOが約1/80、Nが1/160といわれていて、広軌（1,435mm）を基準にゲージを決めたようである。したがって広軌以外の鉄道は9mmゲージに合わせるため車体の縮尺率も変わってくる。そのおかげで、のぞみ号と機関車トーマスが同じレールの上を走るという妙なことも可能になる。

私を鉄道模型にのめりこませたのは、ものを作ることの楽しさであった。特に中高校生の頃、小遣い、材料、工具などすべて乏しいなかで、一生懸命工夫して模型作りに励んだことが、その後の私にいろいろな形でよい影響を与えたと思う。しかしO、HO、Nと進むにつれて、次第に完成品購入のケースが増して手作りの部品が減った分、完成時の感慨も乏しくなった。さらに最近はもっとお手軽に、パソコン上で景観を含めた模型レイアウトを作り、その上をいろいろなパトチャル列車を走らせて楽しむ、模型鉄道シミュレータなるソフトが売られている。パソコンをもっと高性能なのに変えなくっちゃ…。

趣味の多くは、その過程を楽しむことにあり、その結果アウトプットされたものは素人芸の域を出ず、本人の思い入れとは別に、第三者から見るとあまり評価されないことが多い。落語の「寝床」がその代表例である。立派な装丁をした歌集や豪華な額に入った絵を戴いて処置に困ったこともある。その点プロは過程よりも結果がすべてで、ラーメン屋がいかにかダン作りで苦勞したかを語っても、出来上がったラーメンが不味ければ評価されない。

昨今の公共事業の不人気は悲しむべき現象であるが、作る側が趣味の世界を持ち込みすぎたきらいもある。あまりにも作ることに身を入れすぎたため、実用品を作ることを忘れて「手術は成功したが患者は死んだ」に近い状態がなかったとはいえない。今後は「仕事が趣味で…」というような月並みな返事はやめようと思う。